

問公立甲賀病院 ☎62・0234(代) ☎63・0588

少子高齢化社会の中、法改正や診療報酬改定など、病院を取り巻く環境は、日々大きく変化しています。

この変化に迅速に対応し、継続的・安定的な病院運営をするためには、経営形態が非常に重要です。公立甲賀病院は外部有識者による「未来創造委員会」の答申を受け、平成31年4月1日をめどに地方独立行政法人化をめざすことになりました。

Q地方独立行政法人って？

A病院事業など地域に必要な公共的サービスを効率的・効果的に行うため、湖南市と甲賀市の2市が設立する独立法人です。公立病院であることに変わりはありません。

Q法人に移行するメリットは？

A経営の自由度が高まり、医療現場において、より迅速な意思決定が可能になることから、例えば次のようなメリットが期待されます。

- 医療スタッフの充実
- 迅速な設備投資

- 地域や患者ニーズへの迅速な対応
- より効果的で透明性の高い経営

Q地域に必要な医療は確保される？

A法人への移行後も、公立病院としての役割は変わりませんので、救急医療や小児医療をはじめ、地域住民の皆さんに必要な医療は、これまでどおり確実に継続します。

Q患者の医療費負担は増えないの？

A医療費は、国が定める診療報酬で決められており、法人化に伴い患者負担が増えることはありません。

法人化の実現に向けては、今後、湖南市・甲賀市議会での規約変更や、公立甲賀病院組合議会での定款議決などが必要となります。それぞれの議会で十分に協議を経て進めたいと考えています。

また、地域住民の皆さんへの情報提供にも努めます。

With KONAN
ニュース
No.11

多文化共生をめざして
夢を持って働く



今回は市内で人材派遣を行うインフイニティ株式会社の上森さんに外国人の就労についてお話を聴きました。

Q現在どこの国の人が多く働いておられますか。

Aブラジルの人が6割を超えています。次にメキシコ、ボリビアとなっています。日本人も多いです。年齢では、30代、40代の人が多いです。

Qどのような業種が多いですか。

A主に製造業が多いですが、近年は、アップルやレストランなどのサービス業への派遣も始まっています。

Q何か課題はありますか。

A日本で働くには、まず、第一に言葉を覚えることが必要です。それに加えて日本の文化や風習を学ぶこともとても大切になります。しかし、外国人は日本の文化に触れる機会がとても少ないのが現状です。

近年は日本生まれ日本育ちの外国人も増えていますが、今後は外国から働きに来る人も増えてくるでしょう。なかには、自分で起業したいという人もいます。そうした人のサポートも含め外国人が働きやすい環境を整えていきたいですし、特に若い世代に

は、夢や目標を持って生きて欲しいと思っています。

Q湖南市多文化共生推進プラン(※)の策定委員を務めるなかで、多文化共生についてどういった思いがありましたか。

A私はブラジルで生まれ、8才で日本に came ました。私が日本語を話せるのは、小・中学校の時に周りのみんながいろいろサポートしてくれたからだと思います。私の娘も湖南市で育ち、さくら教室で日本語を学びました。サポートがあるというのは本当に心強いことだと思います。ただ、日本語も母国語も中途半端になってしまいう子どもがいると聞きます。子どもの教育をしっかりしないと親も安心して働くことができません。教育と就労をセットで考えていくことが多文化共生の鍵になるのかなと思っています。

※湖南市多文化共生推進プランは、「交流から理解へ」「理解から協働へ」「協働から創造へ」を合言葉に誰もが暮らしやすい新しい湖南市の文化を生み出すことをめざしています。

問 人権擁護課(西庁舎)

☎ 77・8511 ☎ 77・4101